

諫早市教育委員会議事録

令和4年第12回（10月定例）

令和4年第12回（10月定例）教育委員会

- 1 日 時 令和4年10月26日（水）
14時00分～15時35分
- 2 場 所 諫早市役所 8階 会議室8－2
- 3 出席者 教育長 石部 邦昭
委 員 原田 裕介
委 員 山口 秀雄
委 員 中野 高子
委 員 小野 靖彦
- 4 会議に出席した事務職員
教育次長 後田 一光
教育総務課長 江頭 大一
学校改革準備室長 池 政信
学校教育課長 田上 顕二
生涯学習課長 諸岡 昌史
- 6 議題
議案第17号 諫早市教育委員会の事務局の組織に関する規則の一部を改正する規則
議案第18号 諫早市教育委員会公印規則の一部を改正する規則
議案第19号 令和4年度諫早市教育委員会表彰受賞者の決定について

議事録署名人の指名

山口委員と小野委員を議事録署名人に指名

議事の非公開

議案第 1 9 号については人事案件であるため非公開

議事録の承認

令和 4 年第 1 1 回（9 月定例）教育委員会の議事録について
質問・意見なし
原案どおり可決

教育長の報告の要旨

《教育長の報告》

教育委員会の 1 0 月の動きについて

1 0 月に入って新型コロナウイルスの児童生徒の感染は激減している。4 月からの罹患者を載せているが、1 0 月は 2 1 日締めの人
数で月の 3 分の 2 としても大分少なくなっているのが分かると思う。

8 月が一番多くピークだったと思うが、特に中学校では今はほとんどゼロとなっている。小学校では昨日は 1 0 名の報告があっ
ているけれども、一時期に比べると大分少なくなった。

県の感染レベルは 1 になったので、学校行事も復活をしている。コロナ禍以前の状態に徐々に戻しながら予定の学校行事を実行する。その場合、保護者や地域住民、来賓等の参加については、検温やマスク、消毒、密を避ける等の感染症対策を徹底しながら、できるだけ制限を緩和していく。今後、諫早小学校の 1 5 0 周年行事等もあ

るが、感染対策を徹底したうえでの実施をお願いしているところである。また、修学旅行等も大体予定通り行われたと聞いている。

次に、学力向上対策であるが、長時間のスマホゲーム利用をやめてタブレットを活用した家庭学習を行い、確かな学力を身につけるという取り組みを行っている。そうは言っても、スマホというのはかなり児童生徒にも浸透しており、スマホの操作が上手な子供たちはタブレットも非常に器用に使っていると聞いているので、できるだけスマホの利用を制限しながらタブレットを学習に使ってもらえればと思っている。

そして、教職員の資質向上策であるが、秋になり研修会や研究授業がいろいろなところで行われている。委員の皆さんにもご参加いただいているが、非常に良い授業をされている。ただ、私が思うのは、良い授業が校内全体で行われていなければならないのではないかと、もしくは、見た人が自分の学校に持ち帰って広めていくことが大事なのではないのかということである。

それから、読書量と学力は相関があり、新聞を読むほど正答率が高いという記事が、9月10日の長崎新聞に掲載されていた。本や新聞を読む取り組みは大事なことで、デジタル教科書もあるのだが、紙の力もあると思うので、いろいろな本や教科書等もどんどん利用してもらいたい。もちろん、デジタル教科書も授業等で使っているので、それも利用しながら両方の良いところを取っていくということではないかと思う。やはり書くことも大事である。

なお、学校教育課では学力向上瓦版というものを定期的に発行しているので、各学校でも授業等で使って学力向上に取り組んでもらいたいと考えている。

3番目、今こそ人間教育をということで「凡事徹底、人格を磨けば学力が伸びる」と校長会や教頭会で力説をしている。何かを徹底していきましょう、挨拶なら挨拶でもいいし、掃除なら掃除、服装、校則、マナー教育、心の教育、読書活動、平和教育、郷土愛、ふるさと教育など何でもいいので、とにかく自分の学校はこういうことを特色持っていてということが大事なことになるかなと思う。

「凡事徹底」ということは「平凡なことをしっかりとやり続ける」ということである。「凡事はずっとやり続ければ非凡になる」、そういうことをよく言われるので、本物になるため続けることが大事だと思う。

続いて、第3期諫早市教育振興基本計画について、これは国の政策を受けて各県や各市町が教育振興基本計画を策定するのだけれど、まず、本市では第1期の期間が平成25年度から29年度として作

られている。そして、第2期の期間が平成30年度から令和4年度で今年度までとなっている。そして、今策定しているのが第3期計画となり、期間が令和5年度から令和9年度で先を見通した計画ということになる。それはなかなか難しいけれども、教育の世界においては変わらないことがある。例えば、心の教育であるとか、学力の向上とかいったようなものはいつの時代でも言われている。ちなみにICTがここまで進んでいることは第2期計画でも予想していなかったと思う。

令和9年度まで通用するようなものをいろいろと考えながら、プロジェクトチームを作り現在検討しているところで、3月の教育委員会の会議で提示させていただきたい。

諫早市の姉妹都市に出雲市があり、先日出雲の広報誌11月号が送ってきていた。いろいろな特集記事があった中に市民満足度調査が載っていた。その調査で一番になっていたのが、「義務教育小・中学校の充実」であった。2番目が「歩道整備などバリアフリーに対する配慮」、3番目が「就職支援の取り組み」となっており、義務教育の充実が一番と言われるように頑張らないといけないなど、それを見ながら更に教育の充実ということを考えてところである。

5番目、ふるさと教育の一層の推進について。先般、県の教育長から、ふるさと教育を一層推進していきましょうとの話があり、小学校低学年から中学校まで一貫性、系統性を持ってカリキュラムを作っていくことが大事なことであった。また、今回盛り込まれたのが高等学校との連携協働で、今まで中学校までで義務教育のふるさと教育は終わっていたのだが、高等学校も地域に巻き込んでふるさと教育をしなければいけないのではないかとといったことである。

ただし、必ずしもふるさとに閉じ込める教育ではなくて、ふるさと愛し、そしてふるさとの価値を分かった上で、いろいろなところに飛び出していく人はそれで活躍をするし、地元に残って頑張る人は頑張るということである。日本全国や世界で活躍する人も、故郷諫早を思う気持ちがあれば良いのではと思っているところである。

6番目、九州都市教育長協議会定期総会並びに研究大会が10月の20日、21日に鹿児島市であった。長崎県から8名の教育長が参加し、非常に勉強になった。

まず、初等中等教育政策の動向ということで文科省の鹿児島出身の人の講演であったが、これからの国の政策について発表された。それから、宮崎県日向市、宮崎県西都市が分科会で発表をされた。

日向市の教育の特徴は、コミュニティスクールを中心にしながら、学校支援を行っていくことや、義務教育学校、小中一貫校の取り組

みを進めていくといったことであった。

それから、西都市の発表では度肝を抜かれたのだが、新しい中学校を開校する予定で、6つある中学校のうち5つの中学校を1つにするということであった。令和8年4月1日開校を目指しておられるが、5つの中学校を1つにするとなると大事である。発表に対する質疑では、6つの中学校を1つの中学校ではないのかとの質問には、1つは山村留学ではないけれども、全国いろいろなところから来ているのでそれはそれで大事にする。残りの5つの中学校は一緒にするということであった。

また、住民の人は了承したのかという質問には、説明会を200回ぐらい行ったとのことであったので、規模が違うなというふうに感じた。

7番目は、皆様にも参加をお願いしているが、10月31日から11月1日に長崎市において市町村教育委員会研究協議会が開催され、西日本各市町から参加される予定である。

1日目は長崎ブリックホール、2日目は出島メッセで開催され、集合等の詳しいことは後ほど連絡するので、ご参加についてお願いする。

最後に、1つは令和4年度優良PTA文部科学大臣表彰についてで、全国規模の表彰であるが、今まで連続受賞している。平成30年度がみはる台小学校、令和元年度が高来西小学校、令和2年度は飯盛東小学校、令和3年度は喜々津小学校、そして、今年も真城小学校育友会が受賞されている。これで5年連続受賞になり、ホテルニューオータニで11月18日に表彰式が開催される。

もう一つは、全国小中学校PTA広報紙コンクールで、飯盛東小学校のPTA広報誌「あじさい」が日本PTA全国協議会会長賞を受賞している。1番目が文部科学大臣賞で東京都の小学校がもらっている。全国協議会会長賞が2番目になり、千葉県松戸市、福井県福井市、そして諫早市ということで素晴らしいことである。以上が私の報告である。

《教育長の報告に対する質問・意見》

[委員]

2点あるが、まず1点目は研究発表のことで、先ほど教育長の報告で自校へ持ち帰って広めるという視点もすごく大事であるとのことであったけれども、私は西諫早小学校の研究発表の研究紀要というのを聞いたときに、発表されている先生がどのようにしたら自校に持ち帰って広めやすいかという視点でも話をされていたので、若

い先生たちがどんどん増えている中で、とても重要な視点だと思った。

もう1点ふるさと教育に関してだが、学校でカリキュラムを構築するっていう視点と、自発的な学びという視点も大事なのかなと思っており、その中で例えば、今小中学校科学展や小中学校美術展が行われており、特に小中学校科学展については学校が結構力を入れている。おそらくほとんどの中学校で夏休みの宿題に自由研究が出されていて、その中から優秀な作品を市の方に提出し、いろいろな賞をつけて展示をされている。その自由研究の中に「諫早市の歴史や文化を調べる」についても部門の一つとして入れても良いのではないかなと思っており、どうしても理科的なものには興味がないという子供もいるかもしれないので、中学校で勉強する郷土について、それをベースにしてもう少し深めたいなという子供がいるかもしれないし、子供が郷土について調べに行こうとするときに、親が車で連れて行くことになったりして、家族を巻き込むこともできる。また、表彰展示をするとそれを見に来た子供たちも関心を持つこともできるため、いろいろな意味で良いことがあると思うので、是非そういうことができればと思う。

[委員]

学力向上のところでの確認であるが、タブレットの利用に関連してW i - F i の設置は全て終わったのか。

[学校教育課長]

W i - F i がない家庭にもルーターを貸し出すということで整備している。

[委員]

長崎新聞の読書量と学力の相関のところ、私もその記事を読んだが、教育経済学などでは、長年分析すると学力ある子が新聞を読んでいたという逆の相関関係が結構話題に出てくる。新聞読むほど正答率が高いというところでは、以前西陵高校の校長先生であった先生とその話題で昔よく話をしていたのだが、その先生が西陵高校の校長だったときに、教員が新聞を読んでいるという話をされていた。実際、私も学校の先生といろいろな話をする機会があるけれども、新聞読まれているのかなということがある。話題を振っても分からず、今朝の新聞見ていないのかなと感じることが結構ある。

ちなみに、学校の先生たちが新聞を読んでいるかどうかという統計はあるのか。

[学校教育課長]

統計はない。新聞は学校で取っているの、それぞれ見ていると思うが、全員がしっかり読んでいるとまでは言えない。

[委員]

新聞自体の購読数はかなり減っていて、ネットを見ればという言い訳をよく聞くが、ダイジェストで見る情報量でいうと一番新聞が便利だと思うし、また、日常の話題についていけない教員が最近多いのではないかと思う。いろいろ非常識な事件が起きていて、新聞を読んで自分を振りかえらないのかと感ずることもあるが、是非新聞を読むように進めてほしいと思う。

もう一つ、ふるさと教育のところで、転勤があるから仕方がないかもしれないが、学校の先生たちが意外に地元のことを知らない。先ほど自由研究の話があったが、手前味噌になるが娘が中学校のときに諫早の特産物を全部調べて、自由研究としてまとめて出したのだが、意外に評価が低かった。後で聞くと、それを見た社会の先生が諫早のことを分からなかったのではないかという話があった。時間がないから大変だと思うのだが、学校の先生たちに向けて諫早の歴史などのダイジェスト的な講義があればと思うがどうか。

[学校教育課長]

以前は教職員が諫早市に勤め初めた時に、バスで諫早市内の名所とか風物を見て回る研修があったように記憶しているが、コロナ等により現在は行われていないので検討したいと思う。

[教育長]

コロナが激減しているが、今後の状況はどうなるだろうか。

[委員]

もう1回増えると思う。小学校、中学校も先週末ぐらいから明らかに増加傾向に転じていると見ている。検査する子は大分減っているが10人ちょっと検査して1人から3人ぐらい陽性者が出ていて、少し怪しいなという子を検査すると陽性が出るというような状況が続いている。

B A 5の変異株が出始めており、感染力がB A 5より強いものがあるようだ。おそらく変異株が出ているなかで一番感染力強いものが流行りだし、外国からの規制もなくなっているの、日本にも当然入ってきて、また年末年始あたりで増える可能性が高いのではないだろうか。

また、インフルエンザは今のところ流行ってきていない。9月ぐらいから所々で集団感染は出ているのだが、毎年、9月ぐらいから集団感染が時々出だして11月末から12月初めに感染が増え始める。今年は南半球では例年より早い段階でインフルエンザの流行が

原案可決

《教育総務課長の報告》

令和４年度諫早市教育委員会表彰式について

《教育総務課長の報告に対する質問・意見》

質問・意見なし

《学校改革準備室長の報告》

学校改革準備室の検討状況について

《学校改革準備室長の報告に対する質問・意見》

[委員]

まず、「諫早めがね橋プロジェクト」は学校改革準備室で考えたのか。

[学校改革準備室長]

今回、このような取り組みをしたいということで準備室で考えた。

[委員]

とても良いネーミングだと思う。今まで子供たちが中１に上がる時などの保護者あての文書では、どうしても中１になると不登校が増えるというネガティブなことへの対策という感じがあったが、諫早眼鏡橋プロジェクトという名前をつけて、このような画を描くことによって未来に向けたイメージ、明るい未来のためにしていこうという力強さもあり、とても素敵である。

そしてもう１点、先進校の視察の中でメリットがあったという意見があったと説明されたが、具体的にどのようなメリットがあったのか。あと、視察の中でその他の具体的な意見が出ていたのであれば教えてもらいたい。

[学校改革準備室長]

先進校の視察の中で聞いたメリットであるが、小中一貫校になると中学校の先生が小学校に行って授業を行うということで、より専門的な教育を受けることができるということがあって、学力の向上に繋がっているということ、義務教育学校の場合だと１年生から９年生になるが、中学校３年にあたる９年生が１年生の子をお世話するというので、中３の子供たちの言葉が柔らかくなったこと、また、教職員においても小学校、中学校で壁みたいなものがあったが、

一緒に職員室でいろいろ話をする中で、段々打ち解けて連携が強くなったことなどがメリットとしてあった。また、子供たちがすごく楽しそうに、のびのびとしていたのは印象的であった。

[委員]

視察された小中一貫校や義務教育学校は、規模的には何人ぐらいの学校になるのか。

[学校改革準備室長]

長崎市の小中一貫校は全体で150人ぐらい。佐世保市の義務教育学校については本当に小さな何十人かの学校で、飯塚市の学校については千人を超える小中一貫の大きな学校であった。

[委員]

小規模校のPTAと懇談を行ったと言われたが、こういった意見が出たのか。

[学校改革準備室長]

今行ったところは小長井地域の3つの小学校で、PTA役員の方と話をしたけれども、地域によっては早く一つの学校にしてほしいという意見あるし、自分の学校を残してもらいたいという意見もある。小長井地域の意見を聞く中では、全体的に統合についてはそんなに否定的な感じではなかった。

やはり子供たちの数がものすごく少なくなっているのも、その危機感はあるのかなと感じたところである。

《生涯学習課長の報告》

令和4年度有料PTA文部科学大臣表彰の受賞について

《生涯学習課長の報告に対する質問・意見》

[委員]

受賞式に一緒に行く小学校の仲間に書類を渡そうと思ってちょうど持っているけれども、推薦されるためにはこのぐらい資料を作らないといけない。私が作成したのだが、なぜ頑張って作ろうと思ったかという、生涯学習課の先生がすごく褒めてくれる。だから、そんなに言われたら頑張って作ろうかなと思い、時間をかけて作った。それと、市のPTA連合会の雰囲気もととても良く、会長さんたちもみんなで褒めてくれるので、頑張ることができた。

これだけ資料を揃えて文書を書いてという作業は大変である。だから褒められることのエネルギーというのはすごいことだと思う。

《非公開議題》

議案第 19 号 令和 4 年度諫早市教育委員会表彰受賞者の決定について

教育総務課長 説明

削除

原案可決

その他

教育総務課長

1 1 月定例会教育委員会及び 1 2 月定例会教育委員会の日程について説明

1 5 時 3 5 分閉会